

News Letter

第 9 回失業と健康研究会レポート

①「ワークシェアリングと健康をめぐって」内藤 正子 (保健師) 氏

リストラクチャリングの影響

心のケア法を学ぶことが大切

大企業におけるワークシェアリングをめぐるメンタルヘルス問題について、事例を中心にレポートがあった。前回の研究会でのワークシェアリングに関するレビューに続いた発表である。この企業では構造改革、いわゆるリストラクチャリングがあらゆる分野で実施された。賃金体制では年功序列給から年齢給、職能給、職務給へと改変された。勤務体制では広域流動が強力に行われた。転籍、出向という手段も用いられた。広域流動は技術を持つ人では比較的容易だったが、技術に乏しい人にとっては厳しいものであった。受け入れられない社員は、早期退職の道を選んだ。

結果として、リストラクチャリングは収入減、労働時間数はそのまま、精神的ストレスの増大を残した。アンケート調査法でみるストレス要因は、職場での仕事量の増加、対人関係のトラブル、家族問題（経済、単身赴任による子供のこと、健康）と続いた。これらの要因率は約 48%であった。何ら問題のない人は 12.6%であった。

退職再雇用、広域移動などは個人としては対応できない問題である。今までの生活設計の立て直しなどときめ細かい支援が必要である。それは産業看護師にとって大きな役割であると考えられる。また適正配置についても積極的に参画できるシステムが必要である。

症例検討の中で重視すべき問題点は、成果発表会でプラス面のみならず、マイナス面（対応の失敗など）も報告する、メンタルヘルス対策では上司への研修をしなくてはならない。また本人—家族（妻）—保健師との対話を活性化することが大切であることなどが話し合われた。

ワークシェアリングとは就労者と失業者とが仕事を分かち合うという互助システムで、総雇用量の再配分といえる。一人当たりの労働時間と賃金を減らし、他の人へ分けるのである。労働時間の短縮は雇用増になる。増えた自分の時間をどのように使うか、という新たな課題が生じる。それは人生観を変えなければならない機会になる。ワークシェアリングがもたらすことは、1) 残業削減による雇用効果 2) 時短5%による雇用と消費効果 がある。将来に向けてライフスタイル、働き方の再構築、それは人生観の確立に連動する。

わが国ではまだ遠い先のことである。

②症例報告 黒田 健介 (医師) 氏

うつ病治療・早期発見は対話から

2 症例の検討から得られたこと

精神科外来を受診した2症例を提示。第1例は49歳男性。主訴は睡眠障害（入眠障害、途中覚醒）、出勤時になると吐き気、嘔吐がある。業務課でISO取得のための仕事に熱中して従事していたが、人事異動で購買課へ移った。そこででの仕事は合わないと思っていたが、上記の愁訴があって受診した。うつ病の診断で薬物療法を始めた。上司とも面談して課長職を辞し、仕事の量を減らしたが、雑音が多かった。しかしみんなが仕事を持ってくるのでつい引き受けてしまう。合理化で人減らしがあるで、なかなか休めなかったが、ついに休職。1か月後復職して品質保証部に移る。パソコンを相手にする仕事で少し楽になり、意欲も湧いてきた。しかし仕事を持ち込む性格で、夜でも仕事のことを考えてしまう。その後休職復職を繰り返している。第2例は40歳男性で、連休明けから意欲が湧かなくなり、人と話すのが億劫である。周囲からも元気がないと云われるようになる。産業医から受診を勧められて受診。うつ病が早期発見された例である。

問題点：休職期間はどれくらいが良いのか、であった。結論は長いが良い。しかし社内規定があるので、ためし出勤から始めて観察しながら完全復帰を目指す。週1回は上司が“声かけ”を行う。上司もコツがいるのに不足している。産業医・上司・本人の三者で会合して上司に対話のコツを身につけさせる。早期発見のためのコツは、やはり対話である。目を合わせる機会をもつことが大切である。行動を見守ることである。他人の目で分かるようになると進んだ状態である。

お知らせ

◆次回の第10回研究会は、04年10月16日（土曜日） 14:00—17:00です。

* 予定プログラムは

- 〔1〕「第3回失業と健康に関する専門家会議の報告」的場 恒孝
(ICOH 科学委員会世話人グループ・久留米大学名誉教授)
- 〔2〕「職場メンタルヘルスにおける対話技法」高田 和美
(産業医科大学客員教授)

〔3〕 症例検討、ほか。

* 会場は久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。

ぜひ、ご参加ください。

◆次々回の開催予定日： 第11回研究会 / 05年3月16日

◆本誌 “News Letter” を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人：的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

[事務局] (〒830-0011) 福岡県久留米市旭町67 久留米大学医学部環境医学教室内

“失業と健康” 研究会

Fax: 0942(31)4370 Tel: 0942(31)7552 E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp